

設備設計1級建築士

【重要なご連絡】

設備設計1級建築士の過去問解説は、H21～H30の解説を持って**一次停止**します(R1以降の過去問解説停止)。実行委員5名の中で、設備設計1級建築士を保有するものが1名のみで高齢と多忙により、今後資料作成および質疑対応が難しい状況となりました。代わりの方を探したのですが、当HP資料作りが基本無料であり、ご協力頂ける方を探すことができません。本当に申し訳ございませんが、令和元年以降の問題解答を一時停止とさせていただきます。なお、H21～H30までの資料は引続き掲載します。また、無料で設備設計1級建築士の資料作成をして頂ける方が見つかりましたら、再開したいと思います。どうぞご理解頂けますようお願い申し上げます。

以下は、今まで掲載していた内容です。

1. 試験の現状把握

設備設計1級建築士は、8月上旬に開催される「講義」を受けて、10月上旬に行う試験「**修了考査**」に合格すると取得できる。修了考査は、下記①と②の考査区分に分かれる。建築設備士の保有者は①のみの受験であり、その他の方は①と②が修了考査の内容となる。修了考査は、講義で配布される「**講習テキスト**」を持ち込むことができる(マーカー、付箋等可)。

- ① **法適合確認**(空調換気設備、給排水衛生設備、電気設備、輸送設備の各5問)
- ② **設計製図**(設備計画10問、設備設計(空調換気設備、給排水衛生設備、電気設備)の3分野から1つを選択)

ここで重要となるのが、設備設計の中の選択問題、つまり「空調換気設備、給排水衛生設備、電気設備」のどれを選択するかである。

日常業務の専門性から電気設備、空気調和設備、給排水衛生設備のどれかを選択する必要がある。研究会としては、過去問の分析から傾向がつかみやすい「給排水衛生設備」が有利であると見ている。本講座は、「**給排水衛生設備**」のみを解説している(つまり、空調換気設備、電気設備の解答は行っていない、意匠設計の方でも当HPのみで給排水衛生設備の問題なら合格にたどり着ける)。

この選択問題以外である「法適合確認」と「設計製図の設備計画10問」は、全てについて解答を示している。

2. 試験を1回で合格する方法

設備設計1級建築士の合格率は、区分により下記の通りである。

申込区分Ⅰの合格率(建築設備士無の方):年度により**10～30%**

申込区分Ⅳの合格率(建築設備士保有者):年度により**50～80%**

1回の試験で合格するには、過去問の学習以外にないと言える。逆の言い方をすると、過去問をしっかり学習すれば、1回で合格できる試験でもある。

設備設計1級建築士は、「**建築設備士**」を持っていると、試験は「**法適合**」だけとなる。しかし、この法適合だけでも、テキストをかなり読み込んで、マーカーと付箋をして試験に望んでも、過去問を学習しないと簡単に合格できない。その理由は、1問にかけられる時間が6分であり、その時間内に間違い箇所を見つけて、その理由を記述しないといけないという点である。また、4科目(空調、給排水、電気、搬送)の各5問解答には、それぞれで足切があるので、時間が無くなり、どれかの科目があまり出来ていないと不合格となる。

⇒**建築設備士**を持っている方も油断しないで下さい。・・・「法適合」だけの試験でも**簡単に合格できない**。

なお、法適合の問題は、間違い探し等の問題が多いが、その間違いは1つではない場合もある、つまり試験内のどれかの間違いを

探し当てることで正解となる(良くある質問で、当HP内の間違い以外に間違いを見つけて、そちらが解答ではどの指摘があるが、研究会の解答でも、場合によっては問題内に他の間違いを見つけた方も、そのどちらでも正解になるので留意頂きたい)。

建築設備士を持っていない方は、設備設計も試験になるが、その難易度は更に高まる。

設備設計1級建築士は、一般書籍による過去問の解説書が販売されていない。かなり詳細に市場調査した結果、ネット販売で過去問5年の解答書があったが、**10万円**を超える高額であった。また、資格学校では、設備設計1級建築士の講座があり過去問の解説等がされるが、**40万円**を超える講座であり、あまりに高額であると感じる。

当HPは、H21～H30までの10年間の過去問解説を掲載している(ただし、図等は手書きできれいではない)。また、設計製図の選択問題(給排水衛生設備)を確実に合格するため「**H21～H30分析取りまとめの機器表一覧表**」を掲載した。建築設備士は、過去問を学習すると**1回で合格できる**ので、是非、当HPを活用頂き合格して頂きたい(意匠設計が本職の方でも、受験資格があれば当HPの学習で合格できると判断している、また令和以降の受験でもH21～H30の過去問を学習すれば合格できると考えている)。過去問の解説は、センターとの問題使用の許諾条件に基づき会員講座(年会費2万円)のみでの公開である。